

食生活を大切にしているので、ホーム選びは「食」が楽しめる所が条件でした

佐倉(ゆうゆうの里) 大西幸江様(78歳) 平成31年3月 一人入居

松山の中学校で出会った英語の先生

生まれは愛媛県松山。4人きょうだいの長女です。家は兼業農家で、稲を植える時期になると母から「自分の食べる分だけでも植えなさい！」と言われていたことを思い出します。中学校では、素晴らしい英語の先生に出会いましただ。他の英語の先生とは全く違っていたんです。英語の時間になるとテーブルコーダーを持って教室



ご友人と食事を楽しむ大西様(左端)

に入ってくるんです。それを生徒に聞かせるの。先生は「耳からの英語を！」と生の英語をたくさん聞かせてくださったのです。それでみんなに『ラブミー・テンダー』とか英語の歌を歌わせるの。だから自然とフレーズを覚えて口ずさんでいました。その先生の影響があつて教員になろうと思ひました。どんな生徒でも真剣に向き合う。「教師」は私の天職でした

高校を卒業して関西の大学に行きました。教員試験にも受かったにも関わらず、関西で商社に勤務一年が経つてから、縁あつて愛媛の出身中学校で英語を教えることができるようになりました。私はやっぱり教員の仕事が合つていと思ひました。

その中学校に「不良」と言われる生徒がいました。他の生徒も怖がつていて、真面目に授業を受けている成績優秀な子たちが小さくなつていふんです。本人は「わかりませーん」とかふざけて教師を馬鹿にしていました。思ひ余つた私は、ある時その生徒の席まで飛んで行き、胸元を掴んで頬をピン



タしたんです。今考えるとずいぶん大胆なことをしたものです。でも、それを機に生徒の態度がガラツと変わりました。他の生徒に向かつて「先生の話を聞けよ」つてみんなをまとめてくれるようになったんです。それまで、周囲に彼を怖がる人はいても、本気で叱つてくれる大人はいなかつたのです。クラスの雰囲気も良くなりました。教師自身が真剣なら生徒に伝わると思ひました。結婚後は、自宅で英語の塾を始めました。毎日、夜7時から8時半まで教えていました。

胃がんと患つた時、一人で生活を続けるのは無理だと気づきました

主人が亡くなつてから胃がんと発症し、このままひとり生活していくことは難しいと感じたことがありました。さらに自転車で車に接触される事故に遭いました。そういうことがあつてから、娘が心配し、いつも土日に様子を見に来てくれました。嬉しかったけど、「いつまでも娘に頼れない。子供に迷惑をかけたくない」と思ひま

した。元氣な時に入居できる施設があると知り「そういうホームなら入りたい」と思ひました。へゆうゆうの里を見学すると「こんなに元氣な方が入居しているのか」と驚きがありました。決め手は、佐倉の食事が一番美味しかったこと。健康のために美味しい食事は欠かせませんからね。自然環境も、プールがあることも気に入りました。

今はスペイン語を覚えるのに必死

毎日、7時ごろに起きると体調が一番いいんです。目が覚めたらベッドの上で10分ほど体操。それから湯冷ましを飲みながら、スペイン語のラジオ講座を15分間聞きます。今は、スペイン語を覚えるのに必死です。

自宅にいた時よりも歩くことが増えました。里は緑が多くて気持ちがいいです。入居してからも書道は続けています。日曜に教会に礼拝に行くことも変わリません。それからコーラスサークルに入り、アルトを担当しています。コーラスでは、秋の祭典で知り合つた素敵な先輩入居者の方に親切にしていただいています。

今は何があつても安心して生活できます。ひとりだとか何かあるたびに娘を頼ることになるけど、もうその心配はありません。私より娘の方が安心しています。